



お茶を飲みながら、
ぎのわんの歴史を
のぞいてみませんか？

嘉数から全貌を

写真は約40年前に嘉数高台公園の展望台から撮影されたものです。1964(昭和39)年、嘉数の高地に展望台が建設され、1980(昭和55)年に公園として施設が開放されるようになりまし。展望台からは本市の東西や西海岸、普天間飛行場を見ることが出来ます。写真左奥の西海岸は、いよいよ建設が始まる様子が伺えます。写真手前には1960年



▲高地に建設された展望台より 1970~1980年代手前が外人住宅地、奥に見えるのが西海岸です。



▲現在の様子 2018(平成30)年5月撮影

代より建設されるようになった「外人住宅」が立ち並んでおり、平屋でシンプルなコンクリート設計が主でした。その後、外人住宅がきっかけで建築技術が県内に広まり、また台風などの自然災害を防ぐため、木造赤瓦の民家が多かった沖繩に鉄筋コンクリート住宅が建てられるようになりました。

そして下の写真は現在の様子です。写真手前の外人住宅もほとんど残り、近年では県内全域で本土からの移住者や観光客に特に好まれています。また高台公園の展望台には、連日多くの修学旅行生が訪れ、米軍統治下の沖繩・宜野湾の歴史から現在の様子まで見て学べる場所となっています。皆さんも変わる街、変わらない街を見て感じるのはいかがでしょう。

【問合せ】
市立博物館 ☎870-9317

はくぶつかんの 部屋 45

宜野湾市の歴史や文化などを
紹介します



夏休みは博物館で 楽しく学ぼう！

梅雨が明けたら、あつという間に夏休み。夏の子ども向けイベントをお探しのみなさん、当館の「こども博物館教室」はいかがですか？

「こども博物館教室」とは、市内に住む小学3年生〜中学3年生を対象とする、夏休み限定開催のイベントです。回ごとに参加者を募り、もの作りや地域めぐりを通して宜野湾の自然・歴史・文化を学びます。

そこで、昨年開催した「ソテツの虫かご作り」の様子をちよこつと紹介します♪

もの作り体験は、あらかじめ用意された材料を使うのではなく、博物館周辺の緑豊かな環境を活かし、自分たちで材料調達することから始まります。なかには、植物の名前と実際に生えている姿が結びつかない子もいて、ソテツを見ると「ああ〜見たことある！これなんだ！」と驚きの声があがりました。

館内に戻ってからの虫かご作りは、



▲実習生に作り方を習う子どもたち (2017年8月)

チクチクする葉を相手に一生懸命取り組んでいるようでした。完成すると、どこから虫を入れるのか不思議そうにしつつも、「大きく作れたからセミも入れられる！」など、達成感あふれる笑顔が見られました。

このように、実際に足を運んで身近な自然に触れ、もの作りを楽しみながら先人たちの知恵を学ぶことができると、このイベントの魅力です。

博物館では、今年も夏に向けて「こども博物館教室」を準備中です(昨年と同じ内容とは限りません)。詳しい日程・内容・申込方法は市報7月号と博物館ホームページでお知らせしますので、ぜひチェックしてみてください！

【問合せ】
市立博物館 ☎870-9317